

減災に向けて 地域防災力の向上

今年の町防災訓練は、自助・共助・連携を意識した訓練内容でした。 町 環境防災課 ☎84-0314



今回の想定は
8月31日(日)午前8時、相模トラフを震源とする大規模地震が発生したという想定で、防災訓練を実施しました。各家庭では、シェイクアウト訓練(姿勢を低くする、身を守る、揺れが収まるまで動かない)などの安全確保行動を1分間行いました。その後、多くの皆さんが、各自主防災会の訓練に参加しました。

訓練内容をリニューアル

広域避難所開設訓練 くモデル会場は開成小学校く

町防災安全専門員が講師となり、実践的な訓練をしました。今回は上延沢、下延沢、円中自治会から、参加していただきました。

訓練1 状況把握訓練

訓練内容は、受付(避難された方の名簿作成)、班分け(役割分担を決める)、連絡調整会議(避難所運営のルールを決める)です。
災害時、冷静に対応するためには、情報を適切に把握することが、避難所内でのトラブルを防ぎます。

訓練2 班別訓練

避難スペース設置
避難所の居住スペースを間仕切りなどで作成しました。
災害時は心身共に、極限状態に陥ります。精神的な緊張状態を緩和するために、個別空間を設置する必要があります。



避難スペース

仮設トイレの組み立て

トイレが使用できない場合に備えて、実際に組み立てる作業をしました。
トイレの設置は、衛生管理をするうえで重要です。



仮設トイレ

訓練3 合同訓練

三角巾を利用した 応急訓練など
けがをした場合の訓練をしました。また、今回の訓練では、耳の不自由な方のために、手話通訳の派遣を受けました。災害時は、捻挫などの軽度なけがは、医者の診察を受けるまでに時間を要する可能性があります。応急処置をすれば、状態悪化を抑えることができます。



三角巾を利用した訓練

中家村自主防災会での取り組み

防災について勉強する会「たんぽぽ」と中学生の連携プレー

「たんぽぽ」は、備蓄品を使用した炊き出しや非常食レシピの紹介などを中学生とともに行いました。たんぽぽの会員に、訓練の様子を聞きました。

訓練内容は

発電機により電気炊飯器を使ったり、釜戸に火をおこしたりして、白米を炊きました。また、非常食を作り、参加者に試食していただきました。

訓練を振り返って

たんぽぽ代表の荻野昌子さんは、中学生の活躍が素晴らしいと話していました。試食コーナーでは、作り方を質問された方に中学生がきちんと答えていて、頼りになったそうです。会員の佐々木節子さんも、中学生がいなかったら、うまく訓練ができなかったかもしれないと中学生の働きぶりに感心した様子でした。



非常食の試食

声かけで円滑に

初めは恥ずかしそうにしていた中学生でも、声をか



左から小澤さん、佐々木さん、荻野さん

中学生は、やり方を見せてあげれば、飲み込みが早いので、大きな力になってくれます。中学生の子どもがいる小澤靖子さんは、学校の先生の協力があつたことも良かったと振り返ります。

将来に期待

中学生の参加は、昨年度に引き続き2回目になり、訓練に少し慣れてきたように見えました。中学校を卒業しても、ぜひ参加していただき、地域防災の大きな力となってくれることを期待しています。

鈴木防災安全専門員

避難所の運営主体は、行政機関ではなく避難者自身です。今回の訓練は、「見る」だけではなく、「体験」して自ら行うことを中心とした訓練を実施しました。



三角巾の訓練

伊藤防災安全専門員(写真中央)

各器具の取扱い訓練などについて、皆さん真剣に取り組んでいただきました。日頃から、防災意識を高く持っていただくことで、実際に災害が発生した際に適切な対応をとることができます。



防災倉庫内の備蓄品確認

広域連携

町は、ビッグレスキューかながわ(平成26年度神奈川県・小田原市合同総合防災訓練)と連携し、救援物資搬送訓練も実施しました。



開成町救援物資集積所